

星になった祖母

藤野花凜（埼玉・白岡市立南中学校）

昨年、病気のため人工透析を三十年近くしていた私の大好きだった祖母が亡くなりました。祖母は七十七歳でしたが、人生の後半の大部分を透析をしながら生活するという大変過酷な生涯でした。一週間に三回ほど病院に行き、半日かけて血液をきれいにしていました。この祖母の命を繋いでいた「人工透析」とは、どのような仕組みで行われているのでしょうか。

人工透析を行う人の大部分は主に腎臓を悪くした人たちで、放っておくと体に老廃物が溜まり、死にかかわる危険な状態に陥るそうです。そこで機械を使って人工的に血液から老廃物を除去し、きれいになった血液を再び体内に戻していきます。これらの医療行為の費用は通常の場合、ほとんど自己負担がない形でできるそうです。祖母も身体障害者一級の手帳を持っており、薬代なども安く済んでいました。これらすべてにかかる医療費の多くが「税金」で賄われています。この税金のおかげで祖母は生き延びることができました。そして中学生の私も、祖母の最後の十四年間を共に過ごすことができました。

もしも人工透析の費用を支払わなくてはいけない場合、月にすると約四十万円ほどかかるそうです。年間にすると五百万円です。そのような大金はきっと支払うことができず、祖母の命をつなぐことはできなかつたでしょう。このようなことを知るまでは、私は税金はできれば払いたくないと思っていました。まさか大切な祖母の命が、私たち国民みんなが払っている税金で支えられていたとは夢にも思わなかつたからです。身体障害者一級の人への医療費の助成は人工透析や薬代だけではなく、交通機関やタクシー料金の割引、車椅子などの福祉機器の無料交付といった幅広い範囲で行われています。本当に手厚い福祉サービスに感謝すると共に、改めて税の大切さを実感することができました。

世の中には税金など払いたくないと思っている人がいるかもしれません。そのような考えが浮かんでしまうのはなぜでしょう。それは、税金の本来の使い道への認識が甘いのかかもしれません。人が生きていく上で欠かせない福祉や教育、公共事業などあらゆる場面で税金が使われています。ところがそれらのサービスは当たり前のことだと思ってしまう、税金で賄われていることを忘れてしまっているのではないのでしょうか。救急車や警察官が来てくれること、教科書が無料なこと、道路を整備してくれることなど全て、税金を用いているのです。それらをきちんと認識していれば、払いたくないと思うことはないはずです。

祖母が亡くなってから、まもなく一周忌を迎えます。私は墓前で皆様に支えてもらった祖母のことを思い出し、元気な姿を見せてあげることが一番の供養だと思っています。いつか私も納税するようになって、誰かの役に立つことができたら嬉しいです。